

(2024/03/22)

## 修業式

3年生が卒業してしまい、少し寂しい感じがしますが、まもなく280名の新入生が富谷高校に入学し、また活気が出てくることでしょう。皆さん新入生を笑顔で迎えてくださいね。

今回皆さんにお話ししたいことは、最近の話題から2つ、1つは政治に関心を持ってほしいということと、もう1つは勉強のやる気スイッチを入れてほしいということです。この2つに関連性は全然ありませんし、1年の締めくくりの日の内容としてはもっとふさわしいものがあるとは思いますが、最近のトピックなのでお話しします。

はじめに政治について、先々週の3月6日に学校から一斉メールで謝罪のメールを送りました。保護者向けだったので、皆さんはわからないかもしれません。内容は、学校徴収金の取扱いで一部不適切な行為があったことです。河北新報が「教職員がポイント私物化」というタイトルで、先月、大々的に報道して話題になった件です。まず、学校では、教材費や部活動の物品代などを学校徴収金として納入してもらっています。河北新報は、いくつかの学校において、学校徴収金で物品を購入する際、立て替え払いをして、ポイントを得ているケースがあることを報じました。宮城県では小中高合わせて470件ほどあったとのこと。本校でも令和4年度分を調査した結果、ポイントを90ポイント分取得していたことがわかりました。宮城県の規定では、個人のキャッシュカードやクレジットカード、ポイントカードなどを使用してはいけないことになっています。それに違反していたことが調査でわかったので、申し訳ありませんでしたと文書で謝罪したのです。学校で間違いがあれば責任者である校長がそれを認め謝罪するというごくごく基本的な対応をおこないませんでした。今のところ問い合わせやご意見が寄せられたということはありません。

問題の質が大きく違うことを前提に話を広げます。一部国会議員のいわゆる「ウラガネ事件」について、国民の大多数が、説明責任を果たしていないと新聞社の世論調査に回答しています(2/18毎日新聞、自民支持7割、公明8割、野党9割)。私もそう思います。「裏金」「還付金」「キックバック」とさまざまな言い方があるようですが、そのような仕組みでお金を得たりそのお金を使ったりすることは政治資金規正法の趣旨や理念に照らしておかしいのではないか、違法性があるのではないか、脱税ではないか、説明にも責任の取り方にも納得できない、というのが多くの国民の声です。皆さんはどう思いますか？2年生は、2月1日に主権者教育で模擬投票を経験しました。そのときの、感想がHPに載っていたので少しだけ紹介します。「自分の意見を政治に取り入れられる大事な機会なので、選挙権を持ったら政治家について細かく調べて投票したいです」「これからの世代を背負っていく私たちが政治に関心を持ち、投票することで日本の未来を支える手助けができればいいなと思いました」。皆さんはまもなく有権者となります。政治や社会に関心を持ち、ぜひいい未来、いい社会を一緒に作っていきたく思いますので政治にも関心を持っていきましょう。

次に、勉強のやる気スイッチですが、これは私が成績会議のたびに、先生方をお願いするときのいつものフレーズです。成績上位の人は、いつもやる気スイッチが入っていて素晴らしいです。努力もしていることだと思います。ぜひその努力を継続して富谷高校を引っ張ってってください。ただ、そうではない人もけっこういるわけで、会議の場面で私はこう言います「成績が振るわず、学習意欲に欠ける生徒であっても、いつどこでスイッチが入るかわからないので、それを信じてご指導お願いします」と。先日の進級認定会議では、残念ながら1回目の会議で進級が保留となった生徒が数名いました。

頼まれて勉強するわけではないのですが、今年を振り返って成績がイマイチだった人は、頼むからスイッチを入れて勉強してくださいね。と言うのは、皆さんは、40年以上前に高校生だった私ととても似ているからです。富谷高校という学校も私の通った高校と雰囲気似ています。ずば抜けて勉強できるわけではないけど悪くもない、部活動も楽しいし一生懸命やるけど上位に入賞できない、なんでもほどほど、悪さをする人がいない平和な学校、学校行事には命をかける、みたいな……。ちょっと違う点があるとすれば、当時の私の通った高校の先生方は今の富谷の先生方ほど親切ではなかったようなところですよ。

高校時代の私は、勉強に力を入れるタイプではなかったので、いつも成績は下位グループでした。そんな私にやる気モードのスイッチが入ったときが2回あって、1回目は高校2年生の1学期末の保健の試験で赤点をとってしまったときです。けっこう仲良くしてもらっていた担当の先生から、テストを返される時「おまえが赤点とは残念だな」と言われたあのときです。保健のテスト勉強を後回しにしまい、32点という初めての赤点でした。その先生の一言が忘れられず、なんだか先生に悪いなという気持ちが出て、次のテストでは100点取ってやろうと保健を重点的に勉強してテストに臨みました。結果は100点はとれず、86点でしたが、意地でほんの少しだけは挽回できた経験です。

そして本気モードに入ったのが、3年生の部活動を引退してからです。何でもほどほどの高校でしたが高校生活はとても楽しくて、教員になりたいという漠然としていた目標が確かな目標になり、大学進学に向けて受験勉強をするようになったときです。国語の教員になりたいと思っていたので、教わっていた国語の先生方の出身大学を聞いて、その大学を目標にして勉強しました。当時の私が通っていた高校では、受験に向けた課外講習が無かったように記憶していますし、塾や予備校に通って受験に備えるという文化もなかったので、夏休みは近くの図書館の学習スペースで、平日は自宅で勉強するというスタイルでした。模試の成績はなかなか伸びませんでしたが、最後には何とか勝負できるほどになりました。私でさえできたのだから皆さんも……という根拠の薄い論法です。

勉強のやる気スイッチを入れるのは自分ですが、もしかしたら誰かに押ししてもらった瞬間があるかもしれません。今年度、勉強のやる気スイッチが入らなかった人は、新年度はぜひ、いつでもスイッチが入るような準備をお願いします。以上です。